焦　点

日本オプトメカトロニクス協会新会長に就任して

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会　会長
平野　聡
（株式会社トプコン　代表取締役社長 CEO）

この度，本会の 2018 年度定時社員総会にて会長に就任いたしました平野でございます。

日本オプトメカトロニクス協会は昨年 30 周年を迎え，31 年目としての新たなスタートを迎えました。この節目の時期に会長に就任させていただいたことは，大変光栄であるとともに，重責に身が引き締まる思いです。前鈴木会長を始めとする諸先輩方の取り組みを継承しつつ，新たな挑戦にも臨んで行きたく思っております。

これから 2 年間，皆さまのご協力，ご支援を得て，この大役に取り組んでいきたいと考えておりますので，よろしくお願いいたします。

近年の IT 技術の進歩と普及に伴い,我々の生活環境における変化は社会的にも技術的にも加速し，かつ複雑化が進む一方です。その中で，本会が目指すべきはどのような姿でしょうか。

基本に戻り確認いたしますと，本会活動の目的は定款の第 4 条において，「本会は，オプトメカトロニクス（光工学，電子工学及び機械工学を融合した技術をいう。）に関する調査研究，工業標準化の推進,人材の育成等を行うことにより,オプトメカトロニクス産業の振興と関連産業の高度化を図り，以て国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与すること」としております。即ち，未来においてより豊かな社会と生活を実現するためオプトメカトロニクス技術全体の向上に取り組むこと，それが本会のあるべき姿であり，活動の方針といえるでしょう。

その上で，本会の目的を達成するため欠かせないものは，オプトメカトロニクス産業が貢献しながら実現すべき，国民の経済と生活の将来像になります。そこで，より確度の高い予測のため，国の政策方針として本年 6 月 15 日に閣議決定された，未来投資会議の「未来投資戦略 2018」に着目してみます。

「未来投資戦略 2018」では，現場のデジタル化と生産性向上を徹底的に進め，日本の強みとリソースを最大限に活用して，誰もが活躍でき，将来的な社会課題を解決できる，日本ならではの持続可能でインクルーシブな経済社会システム「Society 5.0」の実現を戦略的取組として掲げています。

この取組を通じて実現する変革により,「生活」や「産業」に様々な変化がもたらされると述べられています。同時に，将来の社会的課題として人口減，少子高齢化，エネルギー・環境制約があげられており，現場からの「リアルデータ」によりこれらの課題を可視化するとともに，データと革新的技術によって新たな価値創造を行うべきとの提言が行われています。

その一例として，個人の健診・診療・投薬情報を医療機関等の間で共有する仕組みを構築することで，これまでにない効率的かつ包括的なヘルスケアが実現されるとしています。さらには，その仕組みによって地理的あるいは時間的な制約が克服され，都市部と地方の医療格差の縮小が図られるとともに，これまで考えられなかった新たな医療サービスが創出される可能性を示唆しています。

また建築土木分野にて，国土交通省が人口減と少子高齢化対策として推進している“i-Construction”では，建設プロセス全体における 3D データの連携と ICT 技術・建機の活用による作業現場の効率化の推進と生産性の向上がなされ，作業者の安全性の向上と多様な人材の活用が実現することで現場環境そのものが変革され，人手不足の解消や施工品質の向上が実現するとしています。加えて，新技術・新工法の導入と利活用を加速化するとともに，道路，橋梁，上下水道などの維持管理にセンシング技術が求められるインフラ管理分野への展開を促進するとしています。

すでに現状においては，ICT 機器の爆発的な普及や AI，ビッグデータ，IoT 等の社会実装が進む中，世界規模で革新的なデジタル製品・サービス・システムが新たに登場しています。その仕組みに世界中から資金が流入していることから，社会のあらゆる場面でデジタル革命が急速に進むことには，ICT 技術のみならず，既存のデバイスや技術さえイノベーティブなものに変えてしまうインパクトがあることは明らかです。

日本オプトメカトロニクス協会は，デジタル革命に対して，これらの入口であるセンシング技術から，得られた膨大なデータを高速に分析・判断する AI も含めた高度な情報処理技術，出口となる実際の制御や動作を行う制御技術に至るまで，深く関連する各技術を持った会社の集合体であることから，光学・機械・エレクトロニクスの融合がもたらす技術革新の原動力あるいは牽引役となることは，本会のあるべき姿といえるでしょう。

これら，技術革新の実現には，確かな技術力を基礎とし，異分野交流による多様な知見を有して，自らの意思を持って進むことができる技術者の存在が欠かせません。

そのような人材は，異業種，異分野を繋ぎ合わせるコーディネーターに留まらず，大きな変化を生み出し，かつ爆発的な速度で推進する触媒のような存在になり得るでしょう。そのような人材を育成し，未来の日本，そして世界の社会的課題の解決に貢献でれば，これに勝る喜びはありません。

平成 29 年度の人材育成事業では，春の光応用技術研修会をはじめ，20 の技術講座，日本眼光学学会との共催セミナー等，光学を軸とした専門的な技術分野における教育機会を提供致しました。

そして，オプトメカトロニクス技術の国際化も視野に入れた，異分野交流の取り組みとして，本年度 5 つの技術分野間の交流を横断的にサポートする，オプトメカトロニクス技術委員会の設置を予定しています。

これまでも注力してきました人材育成事業とともに，オプトメカトロニクス技術委員会の設置などのような異分野交流推進の新たな取り組みを推進し，未来を描き実現していく技術人材の育成により一層努めてまいります。本協会の新たな挑戦を含めた取り組みにおきまして，引き続き皆様のご支援をお願いし，私の就任の挨拶とさせていただきます。